

確かな学力を身につけ、
心豊かに生きる児童の育成
—気づき、考え、深め、振り返る活動を通して—



～ 目 次 ～

I	研究の概要	1
1	主題設定の理由	1
2	研究の内容	2
3	研究構想図	4
II	授業実践	5
1	指導主事訪問での授業	5
2	特別支援指導員訪問	7
3	保健体育科指導員訪問	8
III	研究の成果と課題	10
IV	学習指導案	11

I 研究の概要

◆ 研究主題

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

—気づき、考え、深め、振り返る活動を通して—

1 主題設定の理由

本校は、全校児童49名という小規模校である。各学級の人数が10名以下と少ないため、自分が思ったことや考えたことを自分の言葉で、はっきりと表現しなくても、素振りや態度で押し量って生活できてしまう環境にある。そのため、自分の思いや考えを相手に伝える力が育つ場面が少ないといえる。さらに、身の周りの人や事象について、自分との関わり合いを意識せず、常に受け身になり、自分の問題として追究していく姿勢が十分でない児童も見受けられる。

「自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現する力」や「自ら課題を見つけ主体的な追究を行い自ら解決する力」は、近年、児童に求められている必要な資質・能力である。本校において、これらの力を養うことは必要不可欠な取組であると考え。そして、以下に述べるこれらの力を養う過程を通して、「確かな学力」が身につく、「心豊か」な生活ができると考えた。

「自ら課題を見つけ主体的な追究を行い自ら解決する力」（本校では、『自己解決力』と呼ぶこととする）を養う過程では、人・自然・社会に対して自分から関わり、問題意識をもたせるとともに、授業における学びのプロセスを確立することが重要であると考えた。また、「自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現する力」を養う過程では、表現する場を多くもつことや自分の思いや考えを伝えたいという意欲をもつことが必要である。そこで、下記に示す「学びのサイクル」を設定し、教科、領域の学習で展開していくこととした。この「学びのサイクル」における学習は、思いや考えを発表する場を保証し、課題解決のために考えを伝えたいという意欲の向上を図ることから、相手に分かりやすく表現する力を養うためにも有効であると考えたからである。

<学びのサイクル>

『気づく』 …自分の生活や日頃の学習から問題意識をもたせ課題に気づく場

『考える』 …気づいたことをお互いに発表して、関わり合い解決方法を考える場

『深める』 …課題の解決に向けて考えを深める場

『振り返る』 …解決までの過程を振り返り成果と新たな課題を把握する場

さらに、この学習において、人・自然・社会にすすんで関わり合えるように、町探険や見学学習、体験活動などを行うことで、地域の人や自然への思いが深まり、豊かな心が育まれると考えた。



川の環境について生平小とのテレビ会議<6年生>

2 研究内容

(1) 児童の実態

○…長所 ●…短所

〔学習面における実態〕

- 与えられた課題や指示には真面目に取り組むことができる。
- 関わり合いによる息の長い発言をもとに、他の考えを取り入れるなどの学習を構築する力が十分に備わっていない。
- 自ら課題を見つけ、自ら解決しようとするのを苦手としている。

〔生活面における実態〕

- 素直であり課題に対し、前向きに取り組むことができる。
- 自分の考えを級友以外に伝える機会が少ない。

(2) 目指す児童像

——自ら学び、解決し、積極的によりよい生活をしようとする児童——

- 自ら「気づき、考え、深め、振り返る」学びのサイクルを修得し、主体性をもって物事に取り組むことのできる児童
- 思いや考えを相手に分かりやすく表現することができる児童

(3) 研究テーマと仮説

【研究テーマ】

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

—気づき、考え、深め、振り返る活動を通して—

仮説①

教科、領域の学習で、「気づく」「考える」「深める」「振り返る」サイクルの中で協働的な学びの場を設定し、教師が適切な支援をすれば、児童自らが課題をとらえ、課題解決のために主体的に学びを追究するであろう。

仮説②

教科や領域、特別活動などの時間に「人・自然・社会と主体的に関わり合う体験活動」を充実させれば、学びに向かう力を育み心豊かな児童が育つであろう。

(4) 仮説に対する手だて

仮説①に対する手だて

- 1 「気づく」場を「見つけ学習」、「考える」場、「深める」場、「振り返る」場を「かかわり合い学習」と具体的な学習方法に置き換え、教師が学習指導を展開する中で、場面の位置付けをしやすくする。
- 2 各教科において、自分の思いや考えの伝え合い（協働的な学び）により、仲間と関わり合うためにコミュニケーション能力の充実を図る。学習形態や発言ルールなどを工夫しながら、スキル活動を取り入れ、段階的に話す力や聞く力を高める。

仮説②に対する手だて

- 1 生活科や総合的な学習の時間を中心にして、学校周辺の恵まれた自然や仲間、保護者、地域の方など、人と関わり合う体験活動（協働的な学び）を行う。
- 2 特別活動（児童会活動）や行事では、全校の仲間が協力し、児童自らが豊かで楽しい学校生活づくりに参画する。

① 「見つけ学習」とは… 「気づく」場で

「見つけ学習」とは、雑多な学習対象から自分が「あっ」と思ったり、心に響いたりした「事実」や「事象」を拾い集める学習のことを指す。

○見つけた事実や事象について、自分なりの思い（感想、解釈、理由、予想、疑問など）を書かせる。

○「見つける」「探す」学習法であり、いわゆる「問題解決学習」法をシンプル化した学習法である。

○「見つけ学習」は、「ひとり調べ」であり、「ひとり読み」でもある。「見つけ学習」をしたうえで、学級全体の児童と話し合い、聞き合いをすることが「かかわり合い学習」につながっていく。

② 「かかわり合い学習」とは… 「考える」場、「深める」場、「振り返る」場で

「かかわり合い学習」のねらいの一つは、児童の追究や活動を見直し、個人追究の質を高めたり、深めたりすることにある。「見つけ学習」からスタートし、自分の考えを発表し、関わり合いの授業を設定する。

○問題解決的な関わり合いの場を設定することにより、話し合いを軸としながら学習内容の基礎基本や考え方の礎を学級全体で共有することができる。

○友達の考えを聞くことにより、自分の考え方との共通点や違いに気づいたり、さらに深まった自分の考えをもったりすることができる。

○自分の考えを発信することにより、友達にヒントを与えたり、新しい考えを導き出したりすることができる。

○グループ学習やペア学習にすることで、自分の考えに自信がもてない児童や話すことが苦手な児童が、安心して話すことができる。

自己解決力を高める授業

問題解決場面で、児童どうしの関わり合いを中心に、「見つけ学習」、「かかわり合い学習」に取り組み、授業の中の関わり合いを通して、児童自身が主体的となって、自ら解決していくことと考える。

3 研究構想図

校訓 求めてはげむ

- ㊦ 人の立場を理解し、他を思う心をもつ子（豊かな人間性）…徳
- ㊧ がんばり努力し、真理を追究する子（確かな学力） ……知
- ㊨ 心身ともにたくましく健康な子（健康・体力） ……体

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

—気づき、考え、深め、振り返る活動を通して—

めざす子供像 **自ら学び、解決し、積極的によりよい生活をしようとする児童**

自己解決力を高める授業

主体的活動の推進

振り返る

深める

振り返る

かかわり合い学習（考え、深め、振り返る）

見つけたことを発表し、関わり合う。学習問題をしばり、解決する。

考える

人や自然、社会とのかかわ

- ・地域の方と関わる各種行事
- ・環境教育の推進
- ・ゲストティーチャー

見つけ学習（気づく）

学習対象から、心に響いた「事実」や「事象」を拾い集める。

気づく

全校での取り組み

- ・環境・健康・安全・奉仕をテーマとした学習
- ・VS活動
- ・全校での各種行事

教師の願い

児童の実態

研究の仮説

- ① 教科、領域の学習で、「気づく」「考える」「深める」「振り返る」サイクルの中で協働的な学びの場を設定し、教師が適切な支援をすれば、児童自らが課題をとらえ、課題解決のために主体的に学びを追究するであろう。
- ② 教科や領域、特別活動などの時間に「人・自然・社会と主体的に関わり合う体験活動」を充実させれば、学びに向かう力を育み心豊かな児童が育つであろう。

II 授業実践

1 指導主事訪問での授業

(1) 実施日時 令和3年6月10日(木) 第3時限(10:30~11:15)

(2) 実施授業一覧

学級名	教科領域	単元・題材名	場所
1年1組	道徳	きまりをまもること	1-1教室
1年2組	国語	とんこととん	1-2教室
2年1組	算数	たし算とひき算のひっ算(1)	パソコン室
3年1組	道徳	本当のやさしさ	3-1教室
4年1組	体育	マット運動	体育館
4年2組	算数	一億をこえる数	4-2教室
5年1組	家庭	ソーイングはじめの一步	5-1教室
6年1組	理科	体のつくりとはたらき	理科室

(3) 授業指導案(11頁~18頁に掲載)

(4) 授業の様子

<1年1組 道徳「きまりをまもること」>

- ・児童が集中して話を聞き、教師の発問に手を真っすぐに挙げて発言していた。
- ・発言者一人一人のネームプレートが黒板に貼られ、それぞれの意見を大切にしながら、ねらいに迫ることができていた。



<1年2組 国語「とんこととん」>

- ・物語にあるねずみの部屋の模型を用意し、児童がねずみになることで、その気持ちや動作を想像させていた。
- ・教師が音を立てたり、巧みに言葉がけを行ったりすることで、児童がねずみの気持ちを自然に考えることができていた。



< 2年1組 算数「たし算とひき算のひっ算（1）」 >

- ・パソコン室で、スクラッチを利用してひき算の筆算の仕方を確認したり、計算の練習問題を解いたりしていた。
- ・丁寧な言葉遣いで、しっかりと発言をすることができていた。



< 3年1組 道徳「本当のやさしさ」 >

- ・「です」「ます」といった語尾をしっかりと付けた積極的な発言があり、それに対する感想を言う一連の発言のルールが定着してできていた。
- ・スクールタクトを利用して、全員の意見を閲覧し、全体で交流を図る様子が見られた。



< 4年1組 体育「マット運動」 >

- ・3つのグループに分かれて、教師がバランスよく指導することができていた。
- ・タブレットPCで、お互いの技を撮影し、動画を見て気づいたことを教え合うことができていた。



< 4年2組 算数「一億をこえる数」 >

- ・板書を工夫したり、教材を大型テレビに映したりして、分かりやすいように配慮がされていた。
- ・タブレットPCを利用することで、教科書の問題にスムーズに取り組むことができていた。



< 5年1組 家庭「ソーイングはじめの一步」 >

- ・玉どめ、玉結びを2段に分けて対比させることで分かりやすい板書がされていた。
- ・タブレットPCで玉結びや玉どめの動画を見て確認しながら、その練習を行うことができていた。



< 6年1組 理科「体のつくりとはたらき」 >

- ・実験の予想や結果をタブレットPCに配付されたワークシートに記入して考察を行うことができていた。
- ・発言者一人一人のネームプレートが黒板に貼られ、それぞれの意見を大切にして授業が行われていた。



(5) ご指導のまとめ(教育支援係長 神谷敦仁先生、指導主事 中根正光先生より)

- ・教材研究をしっかりとしたうえで授業に臨むことができている。
- ・タブレットPCの活用など、先進的な取組にも意欲的に取り組んでいて素晴らしい。
- ・どの教室も非常に落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていた。
- ・掲示や先生方の声かけの仕方などから、子供たちに対する指導に温かみを感じる。
- ・島田先生の授業で使用された教具には、本校の研究課題である「気づく」「考える」「深める」「振り返る」を意識した工夫(本時では、内容を振り返るための装置)がある。S先生の指導案には「〇〇のために△△をする」という書き方がなされており目的とそれに対する手だてが明確にされている。こうした素晴らしい実践を若い先生方がどんどん吸収してほしい。
- ・チーム学習をぜひ進めていただきたい。少人数であるというよさを生かし、助け合い協働的に進める授業を創造してほしい。さらに、小規模校ならではのよさ(きめ細やかな指導ができる、それぞれの子供が発言する機会を多くもてる)を前面に出し、常磐東から子供が語る先進的な授業スタイルを全市に向けて発信してもらいたい。
- ・チーム学習に向けて、子供が自分の思いを発言する機会を多く設定し、本校児童の特徴である話はよく聞けるが、発言はできないという現状を変えていきたい。また、否定や批判をしない聞き方を身につけさせることで、自分の思いを伝えたいという雰囲気を作り上げていきたい。
- ・第2回教育再生実行委員会の提言に「個別最適化」「協働学習」が盛り込まれた。今後は、これから授業づくりのポイントになる。ぜひ、常磐東小学校で学習者目線の主体的な学習を進めてほしい。

2 特別支援指導員訪問

(1) 実施日時 令和3年6月9日(水) 第2限(9:30~10:15)
第3限(10:35~11:20)

(2) 実施授業 第2限 1年2組 自立活動「忍者修行 にんにんタイムでござる(身体の動き)」
第3限 4年2組 算数「一億をこえる数」

(3) 授業指導案(19頁~21頁に掲載)

(4) 授業の様子

<1年2組 自立活動「忍者修行 にんにんタイムでござる(身体の動き)」>

- ・「忍者修業」として、児童が忍者になりながら、「走る」「投げる」「蹴る」の運動を楽しく行うことができていた。
- ・あらかじめ「修業の場」を用意し、児童に自分で場の設定や運動の仕方を考えさせながら活動をすすめていた。



< 4年2組 算数「一億をこえる数」 >

- ・模造紙やカードを黒板に貼付して、視覚的に分かりやすい工夫がされていた。
- ・タブレットPCを利用し、児童が自ら考えて13桁の数をつくることができていた。



3 保健体育科指導員訪問

(1) 実施日時 令和3年12月1日(水) 第2限(9:30~10:15)
第3限(10:35~11:20)

(2) 実施授業 第2限 2年1組 体育「マットうんどうあそび」

第3限 6年1組 体育「常東オリンピック2021 マット運動団体」

(3) 授業指導案(22頁~23頁に掲載)

(4) 授業の様子

< 2年1組 体育「マットうんどうあそび」 >

- ・児童が相談しながらマットの置き方などを考えてコースを作り、後ろ転がりで遊ぶことができていた。
- ・後ろ転がりを上手にしたいという児童の気持ちから、後ろ転がりの練習をグループで取り組み、お互いに気づいた点を伝え合うことができた。



< 6年1組 体育「常東オリンピック2021 マット運動団体」 >

- ・大きく美しい技になるように、各自でめあてをもちながら2チームに分かれてマット運動の技の練習にすすんで取り組むことができていた。
- ・チームで協力して、演技をタブレットPCで撮影して動きを確認したり、気づいたことを伝え合ったりすることができていた。



(5) 全体協議会のまとめ(6年1組の授業について)

< 授業者の反省 >

- ・「相談カード」を用意したが、2名しか使われず、十分に活かされていなかった。話し合いのきっかけとして用意したが別の方法があれば教えていただきたい。



<協議会の話し合い>

- ・基本的な技から発展技まで、前時の振り返りを通して目標を決め、めあてがよくつかまれていた。タブレットPCを利用すると、運動量が減ってしまうことが心配されるが、しっかりと活動できていた。
- ・ロンダートを練習している児童に、他の児童がアドバイスをしたことで、上手にできるようになっていたが、そのことを他の児童が触れることがなく、互いを認め合うことがあまりできていなかった。
- ・児童がほめ合うこと、認め合いが少なかった。それは、基本的なことが一つ一つ押さえられていないで、何を基準に上手とっていいのかわかっていないからではないか。どこまでを目指して、どのようになったら上手といえるか基準を明確にすることが必要である。
- ・タブレットPCを2台使用していたが少ない。2人に1台はあってよい。撮影したらすぐに見て直すポイントを伝えることで上達していき、認め合うことができる。
- ・タブレットPCを見て、アドバイスを伝え合うことはできていた。技が上手くできない児童が知識としては理解できるが、できる児童とどのように違うのか気づくことができない様子だった。
- ・初めに示した「美しく見せるポイント」が、児童にしっかりと把握できていたか疑問であった。足先や指先を伸ばすと体がしまっでできるようになると思った。
- ・「足をそろえる」ことを個人のめあてとしていた児童に、他の児童が手のつき方についてアドバイスをしており、見る目が育っていると感じた。
- ・運動量の確保ができていてよかった。教師が動いて、児童が練習していることがよい。困ったときは、これを見るとできるといった準備があるとよいと思った。
- ・手本のカードが置いてあって見に行っていた児童もいたが、そのカードを衝立に貼っておくと、すぐに見ることができてよいと思った。
- ・2人のチームになり、どんどん練習するとよいと思った。教師が見るポイントを伝えるとよい。みんなで集合することを増やして、みんなで考える場を作るとよい。
- ・指導者が師範できる技能があったので、手本を見せるなどして生かすことができるとよかった。
- ・補助運動で馬跳びをしていたが、何のために行っているか、意識をもってできるとよかった。普段は、2学年合同で授業を行っているので、お互いの先生のよさを吸収できるとよい。
- ・指導者のターニングポイントとなる発言や揺さぶるような発言がなかった。11:05の子供を集めたところでターニングポイントにできた。指導者が、もっと揺さぶることができれば子供が伸びる。

(6) 指導員 波江野先生のご指導

- ・2年生の授業については、後ろ転がりで遊ぶ場づくりを子供たちだけで行っていたことに感心した。
- ・6年生の授業で、「相談カード」は意味がなかったといった反省があったが準備されたことに価値がある。

- ・学習カードに朱書きが一人一人に丁寧にされており、技能の上達につながっていると考えられる。授業において運動量が確保されていてよかった。
- ・本時の学習課題「技の精度を高めるコツを見つけよう」は6年生ではとても難しい。子供はそこまでたどりつけなかったかもしれない。
- ・チームでの練習では、個々のめあてをもって練習を行っており、アドバイスはできていたが、その解決法になっていなかった。技の基礎的な部分が定着されておらず、技のポイントの理解が十分でなかった。
- ・個々の課題が解決されないまま練習が進んでいたため、11:05の時点で再度、個々の目標を確認し全体共有をするとよかった。加えて、子供が技のポイントを理解できるように見本のカードを利用できるとよかった。
- ・マット運動を指導する上での留意点
 - ①低学年において、自分の体を支える恐怖心をなくすことが必要である。そのためにゆりかご、手押し車、うさぎとびなどの運動で基礎感覚づくりをする。
 - ②1年から6年まで系統的な学びがあるので、どの学年でどういう力をつけるのか、確認をする。
 - ③技を習得させるためには、ペアで技の補助をさせることが有効である。子供同士で技の感覚をつかませることができ、コツをつかみやすくなる。教師も補助を行うことで指導のポイントを把握しやすくなる。
 - ④技能ポイントを明確にして指導する。知識として身につけることが、技能の向上につながる。
 - ⑤運動観察によるポイント発見学習の取組がよい。
 - ⑥スモールステップを踏んで、小さなできたを味わわせることが技能の向上につながる。(壁倒立→補助倒立→倒立など)
 - ⑦学習課題の？が、！になるように指導したい。「自分が高めるコツは何か？」→「足をきちんと伸ばすコツをさがそう」→「そのコツは何」やることが明確になる→「こういうコツがわかった！」
- ・体育の授業は、「運動量」「楽しさ」「学び」が必要である。授業全体の7割は、運動量を確保したい。授業では「課題設定」と「振り返り」以外は、運動量の確保を図りたい。

III 研究の成果と課題

1 研究の成果

教科、領域の学習で、自分の思いや考えを伝え合う協働的な学びの場を設定し、適切な支援を行いながら学習を進めることで、児童が課題をとらえ主体的に解決に向けて活動しようとする姿が見られた。また、多くの授業において、課題を達成する上で効果的にタブレットPCを使用することができた。

2 今後の課題

課題解決に向けて論理立てて意見を発表し、話し合いができるように、グループやチームで主体的な追究（チーム学習）ができるように支援の仕方を検討する。

IV 学習指導案

第1学年1組 特別の教科 道徳学習指導案

3限 1年1組教室 指導者

- 1 主題 きまりをまもること C [規則の尊重]
教材名「どうしてこうなるのかな」(本時 1/1)
- 2 ねらい
学校の中で起こりうる問題を描いた絵を通して、きまりや約束の意義について気づかせ、きまりや約束をすすんで守る意欲や態度を育てる。
- 3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て
すすんできまりや約束を守ろうとする実践意欲を高めるために、学級のみんが気持ちよく学校生活を送るためのきまりを話し合わせる。(深める)
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	1 学校生活のきまりや約束について、知っていることを出し合う。 ・廊下は走らない。 ・チャイムが鳴ったら座る。	・学校生活のきまりを想起させ、身の回りにはたくさんのきまりがあることを認識させたり、そのきまりを守れているかどうかを聞いたりすることで学習課題への問題意識をもち、主体的に考えられるようにする。 ・学習課題を板書する。
	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どうして きまりや やくそくが、あるのかな。</div>	
考える (15)	3 場面絵を見て、どんなきまりを守らなかったのか考える。 ①㉞、㉟、㊱の場面について意見を出し合う。 ㉞廊下を走っている場面 ・廊下は走らない。 ・本を読みながら歩かない。 →ぶつかってけがをするかもしれない。 ㉟ちらかっているトイレの場面 ・トイレはきれいに使う。 ・トイレットペーパーをちらかさない。 →次に使う人が嫌な気持ちになる。 ㊱掃除の場面 ・遊ばない。 ・しゃべってばかりではいけない。 →きれいにならなくて、気持ちよく勉強ができない	・場面の様子を把握しやすいように場面絵を黒板に貼付する。 ・児童が今何を考えればよいのか、はっきりと理解できるよう、㉞、㉟、㊱の場面ごとに順番に尋ねる。 ・それぞれの場面で守られなかったきまりは、「どうして守らなくてはいけないのか」「守らない場合はどうなるのか」とさらに考えさせることで、中心発問へつなげる。 ・守られなかったきまりと守る理由が明確になるよう、児童の言葉をもとに、それぞれチョークの色を変えて、板書をする。 ・㉟、㊱は、みんなが使う場所だからこそ、大切にしなければいけないことに気づかせるため、誰が使う所なのか、問いかける。
深める (23)	②きまりや約束を守るとどんないいことがあるのか考える。 ・けがをしない。(自分に関して) ・みんなが安心して過ごせる。(他者に関して) ・物がこわれたり、よごれたりしないから、みんなが気持ちよく過ごせる。(場所や物に関して)	・児童の意見が1つの見方に偏る場合は、①の活動に立ち返り、各場面の板書の意見をもとに多面的な考え方ができるように促す。 ・ <u>児童の発言の「みんな」「安心」「気持ちよく過ごすことができる」と、より楽しい学校生活になることに気づかせる。</u>
	4 1年1組のきまりを考えよう。 ・元気よく挨拶をする。 ・廊下を走らない。 ・遊具を仲良く大切に使う。	・ <u>学級のみんが気持ちよく学校生活を送るためのきまりを話し合い、自分事としてとらえることで、すすんできまりや約束を守ろうとする意欲を引き出す。</u>
振り返る (2)	5 「まなびのきろく」に記入(色塗り)する。 ・1年1組のきまりはげったいに守るよ。 ・みんなのためにきまりを守るよ。	・学級に合ったきまりを考えた児童や友達の意見をしっかりと聞いて発表できた児童を褒める。

5 評価

きまりや約束を守ることの意義や学級のきまりを考えることから、きまりや約束を守っていかうとする意欲をもつことができたか。(活動3、4、5の発表内容から)

第1学年2組 国語科学習指導案

3限 1年2組教室 指導者

- 1 単元 とん こと とん (本時3/5)
- 2 本時の目標
ねずみの動きや言葉から、ねずみの気持ちを考えることができる。 (思考・判断・表現力)
- 3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て
ねずみの様子を想像できるよう、ねずみの部屋の模型を提示し動作化する場を設定する。 (考える)
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (6)	1 4つの挿絵を順番に並び替えて物語のあらすじを確認する。 2 教師が出す音がどちらの方向から聞こえたか動作化する。 ・廊下からきこえてきたよ。 3 本時の学習課題を把握する。	・前時の学習を振り返るために4つの挿絵を順不同に提示する。 ・困っていたら物語を読んで支援する。 ・教科書の挿絵にある「聞こえてくる方向に体を傾け耳を澄ますこと」を理解できるように実際に動作化させる。 ・学習課題を黒板に板書する。
いつもとちがうおとがきこえてきたとき、ねずみはどんなことをおもったのかかんがえよう。		
考える (29)	4 第一場面を音読する。 ・読むところを指で指しながら音読する。 5 「おかしいな。なんだろう。」と言ったねずみの気持ちを考える。 (1) 一つ、どこから、どんな音がしたか教科書から探す。 ・床の下からがたがたという音が聞こえたよ。 (2) 「がたがた」はどんな音か考える。 ・机をゆらすような音だよ。 (3) 「おかしいな。なんだろう。」と言ったねずみの気持ちを考える。 ・こわいな。何の音だ。 ・いつもは聞こえないよ。 ・だれかいるのかな。 6 「とん こと とん」と床をたたいたときのねずみの気持ちを考える。 (1) 「またおとがきこえます。」とはどういうことか、場面の挿絵の違いを見つけて考える。 ・もう一度、音がした。 ・コップや急須が机の上にある。 ・さっきから時間が経った。 ・やっぱり誰かいるよ。 (2) ねずみはどうやって床をたたき、たたいた後何と言ったかせりふを考える。 ・優しくたたき。「誰かいますか。」 ・こわそうにたたき「もしもし。」 ・だまって耳を下に向けて下の音を聞く。	・正確に読めるようにするために指読みさせる。 ・ねずみの部屋の模型を出して実際にやってみながら考えることを伝える。 ・見つけることができないときは「音を聞く前、ねずみは何をしていたか」を尋ね「～から」「〇〇音」という言葉を見つけるように助言する。 ・「がたがた音のする物を見つけよう」と発問し、見つけられないときはいくつかの音を教師が鳴らしどの音が近いかな尋ねる。 ・ <u>床の下から音が聞こえたときの気持ちを考えやすくするために、教師がねずみの部屋の下からがたがた音を立てる。</u> ・気持ちを考え発言できたときは称賛する。 ・第二場面の挿絵を貼る。 ・時間が経って再び音がしたことに気付かせるために、挿絵の違いを見つけさせる。 ・違いを見つけたら称賛する。 ・ <u>床の下からまた音が聞こえた時の気持ちを考えやすくするために、教師がねずみの部屋の下からがたがた音を立て、一緒に動作化することを指示する。</u> ・とんこととんの後に「 」があると思って何と言っているか考えることを助言する。 ・ねずみの床のたたき方やせりふを想像できるように不安や怖い時の行動や気持ちを一緒に考え支援する。 ・たたき方やせりふを考え言えたら称賛する。 ・教師がもぐら役になり劇をする。 ・やり方が分からないときは教師が先にねずみ役になって見本を見せる。 ・不思議そうにせりふが言えたりじっと音を聞く動きができたときは称賛する。 ・ねずみになりきって動作化できたり気持ちを考えたりできたことを褒める。
深める (7)	7 ねずみのお面をつけて劇をする。 ・「おや、なんだろう。」 ・「また、聞こえたよ、だれかいるのかなあ」 ・「とんこととん、だれかいるの？」	
振り返る (3)	8 本時のめあてを振り返る。 ・ねずみさん、こわかったよね ・びっくりしたよね	

- 5 評価
音探しや動作化をすることで、ねずみの不安や心配な気持ちを考えることができたか。
(活動5, 6の発言や動作化から)

第2学年1組 算数科学習指導案

3限 パソコン室 指導者

1 単元 たし算とひき算のひっ算(1) (本時8 / 11)

2 本時の目標

繰り下がりのある筆算の計算の仕方について理解を深めながら、練習問題に意欲的に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

計算の仕方の理解を深めるために、スクラッチ 2.0 を利用しプログラミング活動 (岡崎市プログラミング学習モデルカリキュラム) を取り入れる。
(考える)

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	<p>1 前時に行った、繰り下がりのある2位数-2位数の筆算を思い出す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算を使う。 ・計算がわかりやすくなるから。 ・一の位がひけないね。 </div> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「53-26 は計算する時に何を使いましたか。」と問いかける。 ・分からない様子であれば、前回のノートを見るよう指示する。 ・「どうして筆算を使いますか。」と問いかける。 <p>・学習課題を板書する。</p>
<p>計算のしかたをたしかめながら、ひき算のひっ算をれんしゅうしよう。</p>		
考える (10)	<p>3 スクラッチ 2.0 を利用し、53 - 26 の計算の仕方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチの使い方を確認する。 ・繰り下がりの計算の仕方をプログラム上の画面から見つけ、確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・赤色が十の位で青色が一の位だね。 ・ネコをクリックすると、10本の束の数え棒が右側の(一の位)に動いた。 ・一の位に、10本の束が動いたので、13 - 7 の計算をするとよいことがわかった。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・▶マークをクリックすると問題が新しくなることを確認する。 ・ネコをクリックせずに答え合わせをクリックすると、誤答になることを確認する。 ・「<u>ネコをクリックすると数え棒がどうなりましたか。</u>」と発問する。 ・<u>数え棒が動く理由を考えさせることで、「10の位から借りること」と同じであると気づかせる。</u>
深める (20)	<p>4 スクラッチ上に出てくる練習問題をノートに書き、筆算で解く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・画面を見て答えが合っているか確かめることができるね。 ・わからないときは、画面の数え棒で考えるといいだね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・3問正解したらコスチュームの変更をしてもよし、計算の意欲化を図る。 ・ノートには、式と答え、筆算を書くように伝える。 ・計算が苦手な児童に対しては、スクラッチ上の数え棒を数えて考えてもよしと助言する。
振り返る (10)	<p>5 今日の学習について振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチを使うと、計算の仕方をわかりやすく確認することができました。 ・たくさん正解すると、キャラクターを変えられたので、楽しかったです。 ・足し算より難しいなと思いました。 ・繰り下がりが今日でよくわかりました。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「スクラッチを使って問題をやってみてどうでしたか。」と問いかけ、思ったことだけでなくノートにわかったことや気づいたこと、難しかったことについても記述するように指示する。

5 評価

プログラミング活動を通して計算の仕方をより理解し、練習問題に意欲的に取り組むことができたか。
(活動3, 4の児童の様子やノートの記述から)

第3学年1組 特別の教科 道徳学習指導案

3限 3年1組教室 指導者

- 1 主題 本当のやさしさ B [親切、思いやり]
教材名「持ってあげる?食べてあげる?」(本時1/1)
- 2 ねらい
「わたし」の友達に対する親切な行為を通して、やさしい人について考え、相手の状況に応じて親切にすることの大切さに気づくことができる。(思考・表現・判断)
- 3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て
相手や自分のことを考えた「やさしさ」を具体的に捉えさせるために、2つの場面のよりよい答え方をグループで考えたり発表したりする場を設定し、言われたときの気持ちを考えさせる。(深める)
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	1 友達のことを「やさしい」と思ったときのことを想起する。 ・転んだときに、「大丈夫?」と声をかけてくれた。 ・給食がこぼれたときに、一緒にふいてくれた。 ・水筒を持ち帰り忘れていたら、教えてくれた。 2 本時の学習課題を把握する。	・生活の中で経験した「やさしさ」について想起することで、本時の学習課題に着目できるようにする。 ・自分の経験を分かりやすく説明できた児童を称賛する。 ・学習課題を板書する。
	人にやさしくするときには、どんなことが大切なのか考えよう。	
考える (10)	3 資料「持ってあげる?食べてあげる?」を読み、「わたし」の「やさしさ」について思ったことを話し合う。 ・重いものを持ってあげて偉いと思う。 ・困っていることを助けてあげるのはいいと思う。 ・自分のことは自分でやらなくちゃいけないから、断ってもよいのでは ・嫌いなものでも、少しは食べられるように声をかけてあげる方がいいと思う。	・教科書P.54~P.56を範読する。 ・場面絵を提示し、「わたし」がどんな「やさしさ」を相手に行っていたか確認する。 ・「わたし」の行った「やさしさ」についての意見を、場面ごとに分けて板書する。 ・「やさしさ」について考えを深めていけるよう、相手の言うまま親切にすることはよいのか問い返す。 ・相手のことや自分の状況を考えた意見を述べた児童を称賛する。
深める (25)	4 「わたし」は、何と答えたらよいのか考える。 ①学校から帰るとき ・どうしてなの?自分のものは自分で持った方がいいよ。 ・わたしも荷物があって持てないから、一緒にがんばろう。 ②給食の時間 ・いいよ。でも、嫌いなものでも、一口は食べると、いつかおいしく感じられるよ。 ・体のために、少しは食べたほうがいいよ。 5 人にやさしくするとき大切なことについて考える。 ・相手の気持ちを考えて親切にしたり、声をかけたりしてあげることが大切。 ・相手のためにもなっているか考える。 ・自分が無理なことまでやってあげようと思えない方がいいよ。	・自分の考えを明確にするために、自分だったらどのように答えるか考え、ワークシートに記述するように指示する。 ・よりよい答え方となるよう、グループで役割演技をしながら話し合うように指示する。 ・やさしさを伝える方法を具体的に考えられるよう、グループで考えた答え方を学級全体で発表したり、発表から感じたことを述べ合ったりする場を設ける。 ・相手が納得するような言い方や気持ちの上手な表現ができたグループを称賛する。 ・スクールタクトのワークシートを利用し、全員の意見を交流させることで、本時の学びのキーワードを考えやすくする。 ・本時の学びのキーワードである「相手のために」「相手の状況」「自分の思い」を捉えた意見を発言できた児童を称賛する。
振り返る (5)	6 本時の「学びの記録」を記入する。 ・やさしくするのも、相手のことをよく考えてやってあげなければいけないんだな。	・教科書P.72「学びの記録」に、本時の学習で考えたことや思ったことを記述するよう指示する。

- 5 評価
人にやさしくするときには、相手の立場や状況、自分の思いを考えて親切にすることの大切さに気づくことができたか。(活動4の演技の様子、活動5や活動6の記述内容から)

第4学年1組 体育科学習指導案

3限 体育館 指導者

- 1 単元 マット運動（本時3／6）
- 2 本時の目標
技のポイントを確認し、連続技を調子よく行うことができる。（思考・判断・表現）
- 3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て
撮影した動画を見合って話し合う場を設定し、技のポイントを確認させる。（考える）
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (10)	1 4列横隊で整列し、服装や健康状態を点検する。 2 準備運動を行う。 ・ランニング、柔軟、関節の運動 3 補助運動を行う。 ・馬跳び、手押し車、補助倒立 4 本時の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な行動ができていないか、顔色はどうかなどを注意して観察する。 ・筋肉をしっかり伸ばし、ゆっくりと関節の可動範囲を広げるように指示する。 ・前後左右の間隔を十分にとり、安全に気をつけて行うように指示する。 ・学習課題を板書する。
技のポイントやつなぎの動きを考えて、連続技に挑戦しよう。		
考える (15)	5 個人で練習したい技について場を選択し、練習したり、友達の技をタブレットPCで撮影したりする。 ・前転、開脚前転、後転、開脚後転、頭倒立、補助倒立、ブリッジ、腕立て横跳び越し、側方倒立回転の場 6 動画を見て、技のポイントを <u>確認する</u> 。 ・遠くに手をつくると、前転が大きく見えるね。 ・開脚前転はかかとが先にマットに着いているね。	<ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントを確認する。 ・技のポイントを意識しながら、動画を撮影し、視聴するように助言する。 ・補助の方法が適切に行われているか見回る。 ・意欲的な練習をしている児童や、友達と協力している児童を称賛する。 ・<u>タブレットPCで撮影した動画を見て、気づいたことを話し合う場をもつ。</u> ・<u>技のポイントを押さえて練習している2～3名の児童に演習させ、「楽しい体育」に示された技のポイントを想起させながら発表させる。</u>
深める (10)	7 つなぎの動きに工夫をして、連続した技の練習をする。 ・ジャンプをして向きを変えると、技が連続して見えるよ。 ・指先や足先を伸ばしたポーズを入れると技が増えたみたいだね。	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎの動作の工夫について、示範や児童の演習により具体的に例を示す。 ・確認したことを生かしながら、調子よく連続した技ができていない児童を称賛する。 ・動きを示範しながら、ゆっくりと体を動かすように指示する。
振り返る (10)	8 整理運動をする。 9 本時の振り返りをする。 ・ポイントに気をつけてつなぎの動きを工夫すると、技が上手にできて、調子よく連続技ができるね。	<ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントに気をつけながら、連続技の練習に取り組んでいた2～3名の児童を指名し、技のポイントについて全体で共有する。

- 5 評価
大きな動きをすることを意識して、安定した動作で調子よく連続した技ができたか。
(活動6の発表、活動5・7の練習の様子から)

第4学年2組 算数科学習指導案

3限 4年2組教室 指導者

1 単元 一億をこえる数（本時6／8）

2 本時の目標

既習の計算結果から相対的な見方を活用して、億や兆の位までの数の加法や減法、乗法ができる。

（思考・判断・表現）

3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

相対的な見方ができるように、式を並べて板書したり、デジタル教科書の教材を活用したりする。

（気づく、考える、深める）

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (10)	1 問題場면을把握する。 問題1 $36 + 28 = 63$ 、 $63 - 35 = 28$ を使って答えを求めましょう。 ア 35 億+ 28 億 イ 63 兆- 35 兆	<ul style="list-style-type: none"> 問題の内容をしっかりと把握するために、問題を声に出して読む場面を設ける。言葉や発音の曖昧なところがあれば、教師が手本を示した後、再度、読む場を設ける。 児童が聞き取りやすいように教師は、児童の方を向き、ややゆっくりした速さ、やや大きな声ではっきりと話すようにする。 相対的な見方ができるように、式を並べて板書する。 学習課題を板書する。
	<ul style="list-style-type: none"> 35や28、63は、同じだな。どうやって計算すればいいかな。 	
式をくらべて、大きな数の計算のくふうを考えよう		
考える (10)	3 問題1を解決する。 <ul style="list-style-type: none"> 足される数と足す数が1億倍になっているから答えも1億倍になる。だから答えは、63億だ。 1兆が$63 - 35 = 28$（こ）だから、答えは28兆だ。 	<ul style="list-style-type: none"> $35 + 28$と35億+28億を対比させ、被加数と加数がともに1億倍されていることに気づかせる。 問題解決に戸惑っていたら、1億や1兆の何個分かを考えるように助言する。 数のまとまりに着目して自分の考えを話していたら称賛する。 たし算の答えを「和」、ひき算の答えを「差」ということを知らせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 式を並べて板書し、被乗数と乗数を比べることで、被乗数と乗数がともに100倍、1万倍されていることに気づかせる。 問題を視覚的に整理して考えることができるように、考え方の図を黒板に貼付したり、デジタル教科書の教材をテレビに映したりする。 	
深める (20)	4 問題2を解決する。 問題2 $12 \times 4 = 48$ を使って答えを求めましょう。 ア 1200×400 イ 12 万 $\times 4$ 万	<ul style="list-style-type: none"> かけ算の答えを「積」ということを知らせる。 36億$\times 24$万の計算に戸惑っていたら、1億$\times 1$万を考えるよう助言する。
	<ul style="list-style-type: none"> $100 \times 100 = 1$万だから48に1万をかけて答えは48万だ。 	
振り返る (5)	5 練習問題を解く。 <ul style="list-style-type: none"> かけられる数とかける数がそれぞれ何倍されているかを考えればいいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールタクトを活用して、練習問題を児童のタブレットに配信する。 書くことに戸惑っていたら、板書やノートを見ながら本時の授業を振り返ってみるように助言する。
	6 今日の学習について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> もとの計算の答えの何倍かを考えるとよいということがわかりました。 	

5 評価

板書やデジタル教科書の教材を活用して、既習の計算結果をもとに億や兆の位までの大きな数を相対的に見て計算の仕方を考え、処理することができたか。（活動3、4の発言内容、活動5のノートの記述から）

第5学年1組 家庭科学習指導案

3限 5年1組教室 指導者

1 単元 ソーイング はじめの一步 (本時2/9)

2 本時の目標

玉結び・玉どめの役割を知り、針と糸を使って玉結びや玉どめをすることができる。

(知識・技能)

3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

技能の個人差に対応するために、タブレットPCを活用して各自で玉結びや玉どめの方法を繰り返し見ることのできる場を設定し、正しい方法を確認させる。

(深める)

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	<p>1 フェルトを使った小物を見て、その特徴や作り方を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしも作ってみたい。 ・細かい作業で難しそうだなあ。 ・縫い目が模様のように見えるね。 ・せっかく縫ってもほどけているよ。 </div> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> しっかりと玉結び・玉どめができるように、そのコツを見つけよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって学習が進められるように、本単元で修得する技能を使って製作できる作品を紹介し、自分が作ってみたい物をイメージできるようにする。 ・糸端の始末がしていない作品も同時に示し、玉結びや玉どめの役割に目を向けさせる。 ・学習課題を板書する。
考える (10)	<p>3 玉結びや玉どめの仕方を知り、気づいたことを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして結び目ができるのかな。 ・あつという間に作ることができるね。 ・見た目は同じなのに、やり方はちがう。 ・上手にやるコツを知りたいな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大模型を使って玉結びと玉どめを実際に行いながら、その方法と名称を説明する。 ・児童の反応に合わせて補足説明ができるように、手元の映像を見せながら示範する。 ・練習時間を十分確保するため、簡潔な説明に留意する。
深める (25)	<p>4 裁縫道具を用意し、玉結びや玉どめの練習を繰り返し行う。</p> <p>5 やってみて気づいたことやうまくいかないことなどについて話し合いながら練習を進める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指の先に巻くのが難しいな。 ・親指と人差し指をこすり合わせるようにするといいよ。 ・中指で押さえて引くときは、爪を立てるようにしたよ。 ・結び目が布から離れてしまう。 ・作る位置に針を当てるのが大事だね。 ・強く押さえすぎると針が抜けないよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・針刺し、糸、縫い針、糸切りばさみ、練習布を用意するよう指示する。 ・練習布のしるしに合わせて、玉結びと玉どめを繰り返し行う方法を説明する。 ・タブレットPCでQRコードを読み取って動画を再生すると手順や方法が確認できることを知らせる。 ・それぞれの進み具合や取り組みの様子に合わせて助言したり称賛したりする。 ・机間指導において、再確認すべき手順や児童の気づきを把握する。 ・児童の気づきを基に、ポイントとなる事柄を全体場で取り上げ、話し合ったり確認し合ったりしつつ練習を進めるようにする。 ・練習布での課題が終わった児童には、フェルトを用いた別の課題を用意しておき、すすんで練習ができるようにする。
振り返る (5)	<p>6 それぞれの作品を見せ合いながら本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・こすり合わせるコツが分かったよ。 ・何度もやるうちにうまくできるようになったから、次は、自分の名前の「縫い取り」をしたいな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の感想から、繰り返し練習することで技能が上達し様々な作品製作につながるということを共有し、次時への意欲を高める。

5 評価

針や糸、糸切りばさみなど、用具の使い方に慣れ、手順や方法を確認して縫い始めや縫い終わりに糸が抜けないように玉結びや玉どめをすることができたか。

(活動4の様子、6の作品から)

第6学年1組 理科学習指導案

3限 理科室 指導者

1 単元 体のつくりとはたらき (本時7/10)

2 本時の目標

実験から得られた結果をもとに唾液の働きについて考察することができる。 (思考・判断・表現)

3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

自分以外の考えを取り入れるため、友達の結果や考察を閲覧するための時間を設け、唾液の働きについて考察させる。 (深める)

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	<p>1 実験計画を確認する。</p> <p>・唾液、水、お茶、牛乳をそれぞれご飯に混ぜるとご飯のデンプンが他のものに変化するか確認する実験です。 ・小分けの袋に入れて温める実験をします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの実験計画をもとに本時の実験方法について説明する。 ・唾液が本当にご飯のデンプンを他のものに変化させているかを調べる実験ということを児童に意識させる。
考える (25)	<p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <p>計画した実験を行い、唾液の働きについて考えよう。</p> <p>3 ヨウ素液を加えたときの変化について予想し実験をして調べる。</p> <p><予想></p> <p>・唾液はデンプンを他のものに変化させると思うので、ヨウ素液を加えると色が変わらないと思います。 ・給食のときに牛乳が出るので、牛乳もデンプンを他のものに変化させるのではないかと思います。 ・デンプンは温めると変化すると思うので、どの液体でも変化すると思います。</p> <p><結果></p> <p>・ご飯に唾液を加えたものは色の変化が見られません。 ・唾液以外の液体では、青紫色に変化した。デンプンは他のものに変化していないということだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨウ素液を加えて色が青紫色に変化したものは、デンプンが反応していることを確認する。 ・友達の予想をタブレットPC上で閲覧する時間を設ける。また、児童が気になる予想があれば予想について説明を求めるように指示する。 ・自らの経験から予想をしている児童を称賛する。 ・<u>ご飯に唾液、水、お茶、牛乳を加えたもののそれぞれにヨウ素液を入れると色の変化が見られるか○×で予想し、タブレットPCに配付したワークシートに記入するよう指示する。</u> ・<u>実験が終わった児童から、実験結果をもとに唾液やその他の液体を混ぜることでご飯のデンプンが変化したかどうか考察するよう指示する。</u> ・<u>友達の実験結果や考察を閲覧する時間を設ける。</u>
深める (10)	<p>4 実験結果から考察を行う。</p> <p>・唾液以外の液体では、デンプンを他のものに変化させなかったため、唾液にはデンプンを他のものに変化させる働きがあると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と友達の結果や考察を踏まえて考察できた児童を称賛する。 ・唾液が変化させた他のものが何かという疑問があれば、タブレットPCを使って調べる活動を取り入れる。
振り返る (5)	<p>5 授業の振り返りを行う。</p> <p>・唾液はご飯のデンプンを他のものに変化させます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCに振り返りを記入するワークシートを配付する。 ・唾液の働きについて考察をもとにまとめることができた児童を称賛する。

5 評価

唾液の働きとデンプンの関係について、実験結果のヨウ素デンプン反応から考察をすることができたか。
(活動4の記述・発表から)

第1学年2組 自立活動学習指導案

2限 体育館 指導者

- 1 題材 忍者修行 にんにんタイムでござる(身体の動き) (本時 2/25)
- 2 本時の目標
忍術修行を通して、適切な身体の動かし方を見つけることができる。 (思考・判断・表現)
- 3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て
活動意欲を持続させるために、複数の修業の場を設定する。(考える、深める)
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (5)	1 音楽に合わせて準備運動をする。 2 本時の学習課題を把握する。	・解放できる雰囲気を作るために、リズムカルに動くことのできる音楽に合わせて踊る。
にんじゅつを くりあ するための からだの うごかしかたを みつけよう。		
考える 深める (32)	3 三つの場所で修業を行う。 <走るの巻> ○お手玉おっとの術 ・お手玉1個 ・お手玉2個 ○新聞落ちないでの術 ・手をしっかり広げると落ちないよ。 <投げるの巻> ○ねらえねらえの術 ・得点の書いてある的(段ボール箱)をめがけてボールを投げて崩す。 ・的をよく見るよ。 ○届けの術 ・おもいっきり腕を動かすよ。 <発射の巻> ○ロケットの術 ・スクーターボードに乗って、ペットボトルを倒す。 ・壁をおもいっきり蹴ったら前に進んだよ。	・体育館一面に三つの修業の場をあらかじめ準備しておく。 ・修行内容を理解させるために、見本を見せる。 ・安全に行うために、前をしっかりと見て走ることを助言する。 ・バランスを取りながら走ることができていたら称賛する。 ・活動意欲をもたせるために、動きのこつを見つけたら、掛け軸に書いていく。 ・目標の的をよく見て投げているなら称賛する。 ・やる気が起きるように声掛け応援する。 ・45度上方に向かって投げる動きをゲーム感覚で楽しく身に付けられるように、利き手でない右手を前に突き出すこと、利き手のである左肘を上げることを助言する。 ・膝を曲げて壁を強く蹴ることを助言する。 ・身体を一直線にした姿勢を保持させるために、「ロケット発射!」と声掛けする。 ・上手に壁をけることができるようになったら、3回で何本倒すことができたかをカードに記入する。
振り返る (8)	4 本時のめあてを振り返る。 ○それぞれの忍術で見つけたこつの書いてある掛け軸を読む。 ・新聞紙が落ちないように気を付けて走る。 ・的をよく見る。 ・腕をたくさん降る。 ・壁をおもいっきり蹴ったら前に進んだよ。 5 片付けと挨拶をする。	・力いっぱい修行できたことを称賛する。 ・習得できたものに☆シールを貼る。 ・修行を続けていくと速く走ることができる、重いものを一人で持つことができる、自分でどんどんやれるようになることなどを伝える。 ・使ったものをきちんと片付けさせ、忘れ物がないか確認する。

5 評価

修行を通して、適切な身体の動かし方を見つけ、楽しく活動することができたか。(活動3の観察から)

第4学年2組 算数科学習指導案

令和3年6月9日(水) 第3時限 場所 4年2組教室 指導者

1 単元名 一億をこえる数 (8時間完了)

2 本時の学習

(1) 目標

- ① 13桁の数字を見て、気づいたことを発表したり、0から9までの数字を使ってすすんで大きな数字をつくったりしようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ② どんな桁数の整数でも0から9までの数字を並べ、その数字の位置によって位を表すことで、つくることができる。
(思考・判断・表現)

(2) 準備

- 教師 問題を書いた模造紙、数を漢字のみで表したカード、教師用タブレット
- 児童 教科書、ノート、児童用タブレット

(3) 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

- ・学習内容を視覚的に捉え考えやすくするために、模造紙やカードを貼付したり、デジタル教科書の教材を活用したりする。
(気づく、考える、深める)

(4) 展開

段階(時間)	児童の活動	教師の活動																										
気づく(6)	<p>1 教科書40ページ4の問題場面を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 あおいさんとそうたさんは、数字を13こならべて13けたの数をつくりました。</p> <p>あおい <table border="1" style="display: inline-table; text-align: center; border-collapse: collapse;"><tr><td>3</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>8</td><td>6</td><td>9</td><td>0</td><td>4</td><td>1</td><td>9</td><td>2</td><td>0</td></tr></table></p> <p>そうた <table border="1" style="display: inline-table; text-align: center; border-collapse: collapse;"><tr><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>6</td></tr></table></p> <p>同じようにして、13けたの数をいろいろつくってみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・橙色は、「兆」の部屋、水色は「億」の部屋、黄色は「万」の部屋、桃色は「一」の部屋だったな。 ・二人の数は、1兆から始まる数だな。 ・読みにくいところがあったので、練習をしたいな。 	3	5	8	7	8	6	9	0	4	1	9	2	0	1	0	2	3	5	5	4	9	1	8	5	7	6	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が聞き取りやすいように教師は、児童の方を向き、ややゆっくりした速さ、やや大きな声ではっきりと話すようにする。 ・<u>視覚的に捉えやすいように、4桁ごとに色分けした13桁の数字を書いた模造紙を黒板に貼付する。</u> ・13桁の数字を捉えやすくするため、数を声に出して読む場を設ける。 ・13桁の数字を読みやすくするために、4桁区切り法を使って、13桁の数字の13桁目は、一兆の位であることを確認しておく。 ・児童が、大きな声で自信をもって読むことができるように、初めは、教師といっしょに読み、次に児童だけで読むようにする。 ・大きな声でしっかりと読むことができたなら誉める。 ・児童が、数字の読み方や発音が曖昧であった場合は、教師が手本を示した後、再度、読む場を設ける。また、必要に応じて、読み方のルビを板書する。 ・学習課題を板書する。
3	5	8	7	8	6	9	0	4	1	9	2	0																
1	0	2	3	5	5	4	9	1	8	5	7	6																
課題(2)	<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>大きな数のしくみや作り方を考えよう</p> </div>																											
考える(17)	<p>3 あおいとそうたのつくった数字を見て、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一兆の位の数を比べると、3と1だからあおいさんの方が数が大きい。 ・あおいさんとそうたさんのつくった数は両方とも0から9までの数がすべて使われている。 ・どんな大きさの数でも0から9までの10この数字で書き表すことができるな。 ・漢字だけで表された数は、ずいぶん長くなってしまったな。数字だけの方がすっきりしているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に戸惑っていたら、あおいとそうたでは、どちらの数が大きいのか、また、その理由を考えるよう促す。 ・同じ桁数の数の大きさを比べるには、一番大きな位の数字を比べればよいということを押さえる。 ・2つの数は、どちらも0から9までの数字を使ってつくられていることに気づかせるために、使われている数に目を付けて考えてみるように助言する。気づかなければ、だいちさんの発言をもとに、1桁ずつ数を確認する場をもつ。 																										

<p>深める (15)</p> <p>振り返る (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字は数の他に「億」や「万」など位を表す文字が書かれているな。 ・どんな大きさの数でも0から9までの10この数字で書き表すことができ、便利だな。 <p>4 0から9までの10個の数字をすべて使って13桁の数をつくる。また、いちばん大きい13桁の数をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一兆の位には0は、置けないから、1から9までの数字を入れないといけないな。 ・いちばん大きな数は、9を4回使って、「9999876543210」にすればいいな。 <p>5 0から9までの10個の数字をすべて使って14桁や15桁の数を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14桁や15桁の数字でも、0から9までの10個の数字で表すことができるな。 <p>6 今日の学習について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな大きさの数でも0から9までの数字を使って表すことができるということがわかりました。これからはいろいろな大きさの数をつくりたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>位を数字の書かれている位置で表す十進位取り記数法のように気づかせるため、数を漢字のみで表したカードを掲示し、数字のみで表した数と比べる場を設ける。</u> ・学習のまとめを板書し、ノートに写す時間を設ける。 ・<u>どんな大きさの数でも0から9までの10個の数字でつくることができることを実感させるために13桁の数をつくる場を設ける。</u> ・<u>13桁の数をつくる際に何度でも数字を入れ替えながら考えることができるようにデジタル教科書の教材を活用し、タブレットを操作する場を設ける。</u> ・いちばん大きい数をつくることに戸惑っていたら必要に応じて「13桁目はどんな数字にすればよいか」「9は、何回使えるかな」などの助言を与える。 ・ノートに記入するようにする。 ・14桁や15桁の数を読むことは困難であるので、4桁ずつ線で区切って読むよう助言する。 ・板書やノートの内容を見ながら、今日の学習を振り返ってみよう助言する。 ・児童に振り返りを発表させ、キーワードを捉えて本時のまとめをする。
---	---	---

(5) 評価

- ① すすんで13桁の数のしくみについて発言をしたり、タブレットを操作して13桁の数字をつくったりすることができたか。(活動3、4、5の様子より)
- ② 13桁の数のしくみを調べたり、タブレットを操作して13桁の数をつくったりする活動を通して、どんな大きさの数も0～9までの数字で表すことができるということを理解できたか。(活動3の発言内容、活動4の様子、ノートより)

(6) 板書計画

大きな数のしくみや作り方を考えよう

4 あおいさんとそうたさんは、数字を13こならべて13けたの数をつくりました。

あおい

3	5	8	7	8	6	9	0	4	1	9	2	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

そうた

1	0	2	3	5	5	4	9	1	8	5	7	6
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

同じようにして、13けたの数をいろいろつくってみましょう。

三兆五千八百七十八億六千九百四万九千二百二十一兆二百三十五億五千四百九十一万八千五百七十六

- ・数字はすっきりしている。
- ・漢字は長い。
- ・漢字は、位を表す字と数字がある。

①

13けたの数

・5330142697806

いちばん大きな数

・9999876543210

0は、13けた目にできない

9は、4回使える

㊦ わかったこと

- ・あおいさんの方が数が大きい。
- 1兆の位の数でくらべた
- ・二人とも0から9までの10この数字をすべてつかって数をつくっている。

まとめ

どんな大きさの数でも0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9の10この数字で書き表すことができる。

⑤

14けたの数

・12345678901234

15けたの数

・987654321012345

第2学年1組 体育科学習指導案

令和 3年 12月 1日 (水) 第2時限 場所 体育館 指導者

1 単元 マットうんどうあそび (本時 4/6)

2 本時の目標

転がり方やマットの配置を工夫して、後ろ転がりを取り入れたマット運動あそびに取り組むことができる。(思考・判断・表現)

3 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

後ろ転がりがより上手にできるように、お互いの動きをタブレットで撮影し、気づいたことを伝え合う。(深める)

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく (7)	1 服装の点検、整列、準備運動を行い、前時の振り返りをする。 ・今日は後ろ転がりで遊びます。 ・遊び方や練習の仕方を考えます。 ・前回は、川とびをやったね。 ・最後に大きなコースで楽しく遊ぶためです。 ・もっと上手に後ろ転がりをできるようにしたい。 2 本時の学習課題を把握する。	・準備運動でストレッチを入念に行い、けがをしないように配慮する。 ・「今日は何をやりますか」と前時を思い出させ、「何のためにやりますか」と問いかける。 ・前時の川とびでやった場の工夫を思い出せるように、写真をホワイトボードに貼る。 ・学習課題を板書する。
ころがり方やマットのおき方をくふうして、うしろころがりであそぼう		
考える (13)	3 どのような遊び方があるか考え、遊ぶ。 ・踏切版をマットの下に敷いて坂道を作りたい。 ・マットにテープを貼ってジグザグコースを作りたい。 ・小さいマットを下に敷いてでこぼこのコースをやってみよう。 4 遊んでみて上手くできたことやできなかったことを発表する。 ・ジグザグに転がるのが上手にできなかった。 ・坂道は上手にできたからもっと急な坂にしても楽しそう。 ・競争をしたら楽しかったけど、急いだから上手に転がれなかった。	・児童が準備にすぐに取り掛かれるように、配置を板書する。 ・準備をする際、協力して声をかけ合っている児童を称賛する。 ・児童の発言を板書する。 ・上手くできなかったことを発言した児童に対して、どうして上手くできなかったのか、理由も発表するよう促す。 ・後ろ転がりのよい例、よくない例を板書し、動きをつけながら確認する。
深める (15)	5 上手にできるように方法を考えて、後ろ転がりに取り組む。 ・坂道を使うと勢いがつくよ。 ・テープを引いてまっすぐ回れたか確認したいな。 ・タブレットで撮影したら、回るときに背中が丸まっていないことに気づいたよ。	・2人と3人のグループに分ける。 ・「 <u>タブレットで撮影して、気づいたことを伝えましょう</u> 」と指示する。 ・ <u>児童同士が、よいところやよりよくしたいところを伝え合うことで、新たな課題に気づくことができるようにする。</u> ・後ろ転がりに恐怖感を抱いている児童に対しては、ゆりかごやエビのポーズから練習するように助言する。
振り返る (10)	6 振り返りをする。 ・お尻が上がっていなかったけれど、しっかりと上がるようになった。 ・起き上がるときに横に倒れてしまっていたけれど、きれいに回れるようになった。 ・もう一回上手くできなかった遊びをやってみよう。	・スクールタクトを開き、どこがよくなったかを入力するように指示する。 ・共同閲覧機能を利用して、他の児童の振り返りを見られるようにする。 ・ケガ等がないか確認する。

5 評価

後ろ転がりの転がり方や、マットの配置を工夫して取り組むことができたか。

(活動3の様子や活動6の振り返りから)

第6学年1組 体育科学習指導案

令和 3年 12月 1日 (水) 第3時限 場所 体育館 指導者

1 単元名 常東オリンピック2021マット運動団体 (8時間完了)

2 本時の学習

(1) 目標

- ① チームでの練習を通して、技の精度を高めることができる。 (知識・技能)
- ② チームで技を互いに見せあったり、タブレットで撮影したのを見たりしながら演技の精度を高めるために必要な方法を話し合うことができる。 (思考・判断・表現)

(2) 準備

- 教師 ホワイトボード、学習カード、タブレット用三脚
- 児童 タブレット、学習カード、筆記用具

(3) 「気づき、考え、深め、振り返る」ための手立て

- ・タブレットで撮影した演技を見ながら技のこつや演技を美しくみせるためのポイントについて考える時間を設ける。 (深める)

(4) 展開

段 階 (時間)	児 童 の 活 動	教 師 の 活 動
気づく (5)	1 2列横隊で集合し、あいさつをする。 2 服装、つめ、体調の確認をする。 3 準備運動をする。 ・しっかり柔軟運動をしよう。 4 補助運動の馬跳びをする。 5 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基準の位置を素早く示す。 ・体操服はズボンに入っているか、つめは短く切られているか、体調はよいか確認する。 ・準備運動の号令をかけながら大きく動いて見本を見せる。 ・学習課題を板書する。
課題 (1)	より美しい演技ができるように、技の精度を高める方法を見つけよう	
考える (5)	6 自分のめあてを学習カードを記入する。 ・技と技の間でしっかり静止しよう。 ・指先や足をそろえてできるようにしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・技をきれいに見せるためのめあてを立てられるようにするために、「大きく美しい技を見せるために必要なめあてを設定しよう」と助言する。
深める (29)	7 演技の精度を高めるために2チームに分かれて練習をする。 ・ロンダートの着地のときに足がそろっていないから足をそろえることを意識してみよう。 ・指先や足まで伸ばすと技が大きくきれいに見えそうだね。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの技を確実にいき、美しい演技ができるようにするために、各チームを巡視して練習の補助や師範をする。 ・<u>タブレットのスロー撮影を使い、お手本と見比べて一つひとつの動きについて確認しながら、技の精度を高めるためのこつを探しているチームを称賛する。</u> ・指先や足を伸ばすことを意識していたり、リズムカルに演技をしていたりする児童を紹介する。
振り返る (5)	8 学習カードを記入し、本時の振り返りを行う。 ・止まるところと回転するところのメリハリをつけることで美しい演技になるね。 9 整理運動をする。 10 2列横隊に集合し、あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習を通して、演技をする際に気をつけるポイントについて振り返っている児童を称賛する。 ・しっかり体をほぐすよう助言する。

(5) 評価

- ① チームで話し合ったことを生かして練習し、技の精度を高めることができたか。 (活動7の様子より)
- ② 技の精度を高めるために映像を見て考えたり、チームで話し合いながら工夫するところを見つけたりすることができたか。 (活動7の様子や活動8ワークシートより)